

少などによる小児歯科の患者減少傾向が一般に言われている。私共の診療所に於いてもこのような傾向はみられるが、その中で3才未満児の受診状況は少し異なるようである。今回昭和57～59年の各4～6月に初診来院した3才未満児100余名について調査を行った。その中から、主訴・う蝕状況・治療協力状態・家庭での口腔管理状態等について報告する。

4. 小児歯科臨床におけるコンピューターの利用

○増田純一

(福岡市・マスタ小児歯科)

小児歯科において、子どもの発育確保のためには、経年的管理が必要であります。私は、マイクロ、コンピューターを活用することにより、子どもの経年的管理だけでなく、開業経営上必要な市場調査と患者分析も行っています。昭和57年9月1日より昭和58年8月31日までの1年間のデータ集計と、コンピューターの活用方法を発表いたします。

5. A P Fゲルを用いたフッ化物局所応用(第1報)

— とくに印象法について —

○篠崎英一(福岡市・しのぎき歯科・小児歯科)

木村光孝(九歯大・小児歯)

フッ化物局所応用で、唾液分泌量が多い3～5才の幼児に対してA P Fゲルを用いたトレイ改良法を実施している。この方法は、トレイ装着固定中にゲルが唾液からほぼ完全に隔離される為不快感を味わう事がない。かつ嚥下量も小量ですみ、又従来のトレイ法に比べてゲル使用量が少なく確実に全歯面に付着させる事が出来るので臨床上有効な手段と思われる。術式利点について報告します。